■ほつまつたえ　天の巻６　ひのかみそふきさきのあや【日の神 十二后の文】

【原文カタカナ訳】		【語義考察】		【漢字読み下し】	
	ソノナカヒトリ		そのなかひとり		その中一人
スナオナル	セオリツヒメノ	すなおなる	せおりつひめの	素直なる	セオリツ姫の
ミヤヒニハ	キミモキサハシ	みやひには	きみもきさはし	ミヤビには	君も階段 （高御座の階段）
フミオリテ	アマサカルヒニ	ふみおりて	あまさかるひに	踏み降りて	天下がる日に ［陽陰下がる霊］ ［和栄る日］
ムカツヒメ	ツヒニイレマス	むかつひめ	つひにいれます	向つ姫	つひに入れます
ウチミヤニ		うちみやに		内宮に	

『ホツマツタヱ解読ガイド』

ホツマツタヱ　天の巻（１～１６アヤ）
6 天照神（ひのかみ）十二后（ソフきさき）のアヤ

アマテル神、中宮セオリツ姫と十二后

　どの姫達もそれぞれにお美しく聡明でしたが、その中でも生まれつき素直でお美しい一人の姫に天君はついに心を奪われてしまわれました。本来ならば君たるもの、姫を迎えて品定めをする時は殿にいて殿前（トマエ）でお目通しするのがしきたりとなっていましたが、この時ばかりは自ら階段（キザハシ）をお降りになり、姫の前に立たれて迎え入れたほどです。この姫の名をサクナダリ・セオリツ姫ホノコと申します。さくなだりとは、岩を割いて流れ降る清い渓流を意味し、正に名が体を表わした美しい真名（いみな）でした。称名（たたえな）は君との感激的な出会いに因んで天下る日前向津姫（アマサガルヒニムカツヒメ）と申し上げ、ムカツ姫の御名は後世までも君との出会いを伝える名として残りました。

　君はついに、ついに勇気を持ってご自分に忠実になられ、万難を乗り越えてセオリツ姫をご自身の坐す内宮（うちみや）に入れて一緒に暮らす決心を詔（みことのり）して世に触れました。
　これが、中宮制度の初まりとなりました。

出典
ホツマツタエ（国立公文書館蔵）
秀真（ほつま）政傳紀（和仁估安聰訳述）
訳
高畠　精二